

寅さん歩 その26

東京の主要道路の起点～終点



清洲橋通りー2

平野 武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思い、2021年10月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元 大正通り）」、「内堀通り」、「目白通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」、「江戸通り」、「外堀通り」、「山手通り」、「環二通り」、「外苑東通り」、「外苑西通り」、「永代通り」、「中央通り」、「桜田通り」、「新大橋通り」、「日比谷通り」、「清澄通り」、「晴海通り」、「新宿通り」、「青山通り」、「玉川通り」、「尾久橋通り」、「尾竹橋通り」、「言問通り」、「墨堤通り」、「多摩堤通り」、「三ツ目通り」、「四ツ目通り」、「早稲田通り」、「浅草通り」、「六本木通り」、「池上通り」、「駒沢通り」、「海岸通り」と歩いてきました。

今回は「清洲橋通り」を歩いています。清洲橋通りは台東区北上野言問通りと昭和通りの入谷交差点を起点に、江東区東砂の荒川土手に至る延長約10kmの道です。写真右上は清洲橋通り（都道474号線）の道路名標識です。前回は清洲橋手前まで歩きました。

今回は清洲橋から終点の荒川土手まで歩きます。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました（一部は以前の訪問時に撮影したものもあります）。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

[清洲橋] 中央区日本橋中州

最寄駅 東京メトロ半蔵門線 水天宮前駅

橋の入口に『「復興は橋よりと記載」。これが関東大震災後の復興事業の合言葉でした。帝都を代表する隅田川の入口にあたる第一橋の永代橋は筋骨隆々とした男性的なイメージ、第二橋の清澄橋は梁優美な下垂曲線を描く女性的なイメージで演出されました。これに加えて土木学会では、次のような理由から永代

橋と清洲橋をワンセットにして、第一回選奨土木遺産に選定しました。

「二つの橋は近代橋梁技術の粋を集めて造られた震災復興橋梁の中心的存在である。

清洲橋は美しさを追求した特殊なつり橋であると」記載がありました。

写真下左は清洲橋の中央区側から、写真下右は江東区側からの写真です。



隅田川が中央区と江東区の区境で、橋名は兩岸の江東区清澄と中央区中州の一文字をとってつけられました。写真下は橋から左側に見える新大橋と東京スカイツリーです。



橋を渡ってすぐの清澄一丁目に「陸奥宗光宅跡」の説明板がありました。

陸奥宗光(1844～1897)は紀州藩士の家生まれ、脱藩して尊王攘夷運動に加わり、坂本龍馬の海援隊にも参加しました。明治維新後は外務省に入り、1890年(明治23年)第一回衆議院選挙に当選、第二次伊藤博文内閣の外務大臣として日清戦争(1894～95)の講和に関わりました。邸宅がこの地にあり1872年(明治5年)～1877年(明治10年)ここで過ごしています。

[清澄三丁目交差点] 江東区清澄三丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 清澄白河駅

更に進むと清澄二丁目の右側は清澄庭園、左側は大相撲の阿炎がいる鍛山部屋、大鵬の孫の王鵬がいる大嶽部屋があります。左先の小名木川沿いには高田川部屋もあります。両国が近いので相撲部屋が多いです。

清澄三丁目交差点（写真下右）で清澄通り（都道 463 号線）と交差します。

左へ行くと森下駅・駒形橋方面、右へ行くと門前仲町駅・月島方面です。

清澄庭園は寅さん歩 452 清澄通り-2 をご覧ください。



清澄三丁目交差点先の左側に「干鰯（ほしか）場跡の碑」がありました。碑には「干鰯とはイワシを乾燥させたもので、江戸時代から重要な肥料で寛永の頃関西の漁民が銚子付近に海岸で干鰯をつくり江戸に輸送するようになりました」と記載。昔は関西から船で銚子に移り住んだ人が多かったようです。寅次郎の妻の母方の祖父も和歌山から銚子に移り、創業したヤマサ醤油の関係者でした。

[白河三丁目交差点] 江東区白河三丁目

最寄駅 都営地下鉄大江戸線 清澄白河駅



白河三丁目交差点（写真上右）で三ツ目通り（都道 319 号線）と交差します。
左へ行くと緑三丁目・言問橋方面、右へ行くと木場方面です。

[扇橋] 江東区白河四丁目 最寄駅 東京メトロ半蔵門線 住吉駅

大横川にかかる扇橋（写真下左）を渡ります。写真下右は橋から左側の景色です。
兩岸は桜並木で春が楽しみです。



[扇橋二丁目交差点] 江東区扇町二丁目

最寄駅 東京メトロ半蔵門線 住吉駅

扇橋二丁目交差点（写真下右）で四ツ目通り（都道 465 号線）と交差します。
左へ行くと錦糸町方面、右へ行くと東陽方面です。



[岩井橋] 江東区扇橋三丁目 最寄駅 東京メトロ東西線 東陽町駅

横十間川にかかる岩井橋を渡ります。岩井橋下は横十間川親水公園になっています。
岩井橋は老朽化の架け替え工事中（完成は令和 5 年 10 月予定）でした。



南砂五差路で清洲橋通りは直進します。境川交差点に向かう途中、左側に神社が見えたので立ち寄りしました。

[志演尊空 (しのぶそんくう) 神社] 江東区北砂二丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 東陽町駅



説明板によると『1624年（寛永元年）深川郷唐島開発の際、当地を訪れた菅原長寛が村民の要請を受けて稲荷大神を鎮座して「深川稲荷」と社号を称し、土地の氏神としてあがめた。元禄年間に將軍徳川綱吉が鷹狩りの途中に当社に参拝に立ち寄り「民の志を演（の）ぶる事殊勝なり」と賞して社名を「志演神社」と改名した。1712年（正徳2年）の夏、当地に伝染病が流行し死者が多数に及んだ時、当社五代目別当が病魔退散を祈念し大護摩を焚いたところ病は止まり「ごまの稲荷」と称された。その後、松平伊豆守抱屋敷内に祠られていた稲荷大神が社殿と共に村内に寄付され、社名を「尊空稲荷神社」と称した。戦災で焼失、1947年（昭和22年）3月志演神社と尊空神社を合祠して社名を「志演尊空神社」と改名した』と由緒が記載されていました。

また「この辺りは野菜の促成栽培の発祥の地で、江戸時代寛文年間頃（1661～73）に考案された江戸市中から出るごみ（江戸ゴミ）を堆積、この熱を利用して早く野菜の種をまくことで収穫が早くできる促成栽培が明治維新以後には一層盛んになり、昭和に入って産地の中心が江戸川方面に移るまで続きました」との説明板が境内にありました。

[境川交差点] 江東区南砂一丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 東陽町駅

境川交差点で明治通りと交差します。左へ行くと亀戸方面、右へ行くと夢の島方面です。



[亀高橋交差点] 江東区北砂四丁目

最寄駅 東京メトロ東西線 南砂駅



亀高橋交差点（写真上右）で丸八通り（都道 476 号線）と交差します。左へ行くと大島方面、右へ行くと永代橋通りに合流します。清洲橋通りは都道 10 号線と道路名を変えて直進です。

[東砂六丁目交差点] 江東区東砂五丁目

最寄駅 バス利用で東京メトロ東西線 西葛西駅

清洲橋通り終点の東砂六丁目交差点（写真下左）です。写真下右は終点の道路名標識で右端が直角で、道路名の数字はない区道です。



交差点左の釣り船屋・船宿の先は荒川の土手です。荒川の土手から江戸川区方面を眺めました。



これにて清澄橋通りを起点から終点まで歩きました。ほとんどが初めて歩いた道で多くの新しいことを学びました。

[バーチャルウォーク途中経過]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。

寅次郎、バーチャルウォーク「東海道五十三次」京上りに挑戦しています。東海道五十三次はバーチャルウォーク「弥次さん 喜多さんと伊勢参り」で2021年（令和3年）9月から歩きました。寅さん歩 379 令和3年10月から掲載済です。

今回は宿場などを紹介しながらゆっくりと歩きます。現在やこれから東海五十三次を歩くウォーカーの皆様と街道途中でお会いするのを楽しみにしています。連絡を取り合って、どこかの宿でバーチャル宴会をしたいですね。皆様の旅の進度のご連絡をお待ちしています。

2023年8月8日お江戸日本橋（現在の中央区日本橋一丁目）を出発、2023年8月12日保土ヶ谷宿（現在の神奈川県横浜市保土ヶ谷区）（江戸日本橋から32km）に到着しました。各宿場は歌川広重の浮世絵（無料画像）や宿場などでの話題を紹介します。各宿場については八柳さんからいただいた「完全東海道五十三次ガイド（東海道ネットワークの会）」を参考にしています。



写真左は「保土ヶ谷新町橋」です。帷子川（現在の今井川）を神奈川宿方面から見た保土ヶ谷宿で現在は保土ヶ谷本陣跡の史跡になっています。橋のたもとには二八そば屋があります。広重は当地の名物をさりげなく描いています。

この後「権太坂」に入ります。お正月の「箱根駅伝」に登場する難所です。

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。

今回の東海道五十三次のコースシートは1マス2kmを塗りつぶして進みます。マイペースの散歩で塗りつぶしていく楽しみがあります。

また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷してご利用ください。

平野 寅次郎 拝